

## 2025 聖年 開幕ミサ

2024 年 12 月 29 日 (日) 14 時  
浦上教会 (司教座聖堂)

## 長崎教区の巡礼指定教会

長崎教区では、「聖年」を迎えるにあたり、以下の通り巡礼指定教会を決定しました。

これに関連して、教皇庁内教院院長名で発表された「教皇フランシスコにより発表された 2025 年の通常聖年の間に与えられる免償 (※) に関する教令」をご参照ください。この文書の中で、教区司教が指定した教会への巡礼を行うことが全免償をいただくひとつの可能性として勧められています。同教令は、中央協議会ホームページに掲載されています。 (こちら→)

巡礼指定教会は、教区内 7 地区から各 3 つとそのほか 4 つの合計 25 教会です。

- 【長崎中地区】 浦上、城山、三ツ山  
【長崎北地区】 滑石、出津、島原  
【長崎南地区】 中町、馬込、岳 (飽の浦小教区巡回)  
【佐世保地区】 相浦、三浦町、神崎  
【平戸地区】 平戸、田平、木ヶ津 (紐差小教区巡回)  
【上五島地区】 青砂ヶ浦、桐、江袋 (仲知小教区巡回)  
【下五島地区】 福江、井持浦、打折 (水ノ浦小教区巡回)  
【その他】 大山 (長崎南地区)、貝津 (下五島地区)、土井ノ浦 (上五島地区)、山田 (平戸地区)

### ※免償とは

免償とは、罪科としてはすでに赦免された罪に対する有限の罰の神の前におけるゆるしである。キリスト信者はふさわしい心構えを有し、一定の条件を果たすとき、教会の助けによってこれを獲得する。免償は、罪のために負わされる有限の罰からの解放が部分的であるか全体的であるかによって、部分免償および全免償とに分けられる (教会法第 992 ~ 993 条、『カトリック教会のカテキズム』1471、『カトリック教会のカテキズム要約』312 参照)。

## 聖年の祈り

天の父よ、  
あなたは、わたしたちの兄弟、御子イエスにおいて信仰を与え、  
聖霊によってわたしたちの心に愛の炎を燃え上がらせてくださいました。  
この信仰と愛によって、  
神の国の訪れを待ち望む、祝福に満ちた希望が、  
わたしたちのうちに呼び覚まされますように。

あなたの恵みによって、わたしたちが、  
福音の種をたゆまず育てる者へと変えられますように。  
この種によって、新しい天と新しい地への確かな期待をもって、  
人類とすべてのものが豊かに成長していきますように。  
そのとき、悪の力は打ち払われ、  
あなたの栄光が永遠に光り輝きます。

聖年の恵みによって、  
希望の巡礼者であるわたしたちのうちに、  
天の宝へのあこがれが呼び覚まされ、  
あがない主の喜びと平和が全世界に行き渡りますように。  
永遠にほめたたえられる神であるあなたに、  
栄光と賛美が世々とこしえにありますように。  
アーメン。

この時節、街のそこかしこにイルミネーションが輝く。「光は闇の中で輝いていた」というヨハネ福音書の一句が寒さも相まって心に沁みる。光と闇のテーマをじっくりと黙想してみたいものだ。▲暗闇の中に輝く光は道しるべとなり安心感をもたらす。街灯もない真っ暗な道を進み、幽霊が出るという道筋でかすかな光を見つけるとほっと一安心する。生活の灯りを見るからだろう▲ロシアとウクライナの戦争、ハマスとイスラエルの戦争、世界各地での紛争など暗闇の中に入り出口の見えない争い、戦いを人道に反して行っている。闇の中では命の叫びも爆音にかき消されるのか。命の尊さ、人間の尊厳が輝いてほしい▲主の降誕祭をやがて迎える。泊まる所もなく、家畜小屋に産声を上げた幼子。動物たちの体温の温かさとの眼差しにほっとしたのかも知れない。日本でも、今年は正月から能登半島地震や洪水、猛暑、災害の多い年だった。困難にある人達の姿に目も心も痛みを覚え、何とかできないものかと悲観するばかりで、いわば光の見えない月日であった▲光あれ、そして、光があった。光を知る私たちは、光を浴びて光を反射したいものだ。光である幼子の前にひざまずき、微笑みかけてくださる幼子に視線を置き、ほっと一息つき、幼子とともに生きてくださる喜びをかみしめ、輝く光とともに新たな一歩を歩き始めたい。(万)

2024 年 12 月 24 日に、バチカンのサンピエトロ大聖堂の聖なる扉が開かれることをもって 25 年ごとの通常聖年が始まります。そして、2026 年 1 月 6 日の主の公現の日に、同じバチカンのサンピエトロ大聖堂の聖なる扉が閉じられることをもって閉幕します。



## 2025 聖年 被爆 80 年 神よ、あなたは私の希望

カトリック長崎大司教区

ミサを行うことになっていいます。今回の聖年のテーマは「希望の巡礼者」です。この通常聖年を迎えるにあたって公布された大勅書『希望は欺かない』の冒頭において、教皇様は述べておられます。

「わたしたちはしばしば、失望した人と出会います。自分に幸福をもたらしようものなど何もないかのように、懷疑的に、悲観的に将来を見る人たちです。聖年が、すべての人にとって、希望を取り戻す機会となりますように。」(第 1 項)

「わたしたちはしばしば、失望した人と出会います。自分に幸福をもたらしようものなど何もないかのように、懷疑的に、悲観的に将来を見る人たちです。聖年が、すべての人にとって、希望を取り戻す機会となりますように。」(第 1 項)

大司教 ペトロ 中村 倫明

## 聖年が始まります！

テーマ「希望の巡礼者」



カトリック長崎大司教区 広報委員会  
〒852-8113 長崎市上野町 10-34  
カトリックセンター内  
Tel. 095-843-3869  
Fax 095-843-3417  
振替口座 01880-5-2699  
発行人 山田 良秋  
印刷所 株式会社 インテックス

祈りの意向	祈禱の使徒
・教皇 「希望の巡礼者」聖年が、私たちの信仰を強め、復活のキリストを生活の中で見いだす助けとなり、私たちキリスト者を希望に満ちた巡礼者に変える力となるように 私たちの共同体の中から、神の呼びかけに応じて司祭を目指す新たな召命が発掘されるように	・日本

## ノーベル平和受賞の決定を受けて 日本被団協へメッセージ

核なき世界基金、広島と長崎の両教区

10 月 11 日、ノルウェーのノーベル賞委員会は、2024 年のノーベル平和賞を日本の被爆者らでつくる日本原水爆被害者団体協議会 (日本被団協) に授与すると発表した。これを受けて「核なき世界基金を支援する会 広島本部事務局」は 10 月 12 日、「日本被団協の皆様と、被爆者の皆様へ」宛てたメッセージを公開。また、広島教区と長崎教区も、世界平和を訴えた聖ヨハネ・パウロ 2 世教皇の記念日である 10 月 22 日、受賞を祝うメッセージをそれぞれ発表した。

### 核なき世界基金 「皆様と共に歩み続ける」

「今回の日本被団協の『ノーベル平和賞』は、『核兵器のない世界』の実現に向けての機運を高め、核兵器廃絶の声をさらに強めて、次の世代にその活動を継承していくために、被爆者の方々が築かれた大きな平和の遺産です。日本被団協の活動のために、『核なき世界基金』としても、ここ数年

### 広島教区 「推進力となることを願う」

「カトリック教会のヨハネ・パウロ 2 世教皇が 1981 年 2 月 25 日に、また、フランシスコ教皇が 2019 年 11 月 24 日に、被爆地・広島市の平和記念公園を訪れて、世界平和と核兵器廃絶を強く訴えました。とくに二人の教皇とそのメッセージに励まされて平和活動に取り組む広島司教区は、被爆 75 年にあたる 2020 年 7 月 7 日に、長崎大司教区および民間の 3 つの NPO 法人の代表者の方々と協力して、『核なき世界基金』を立ち上げました。(中略) これまで、『核兵器のない世界』の実現に向けて、日本被団協の皆様とともに歩む機会が与えら

れたことを感謝し、今回のノーベル平和賞の受賞が、日本政府の『核兵器禁止条約』への署名批准、そして次の世代への平和活動の継承の大きな推進力となることを願っています」(10 月 22 日付)

### 長崎教区 「あらためて決意」

中村倫明大司教は、長崎教区の信者一同と大司教の連名で日本被団協に向けて次の通り伝えた。  
「日本原水爆被害者団体協議会は、1956 年 8 月 10 日、長崎においてその一歩を踏み出されたと同つています。わたしたちカトリック長崎大司教区は、同じ被爆地であるカトリック広島教区、それに核兵器実験や製造・処理などによる被害地であるアメリカのサンタ・フェ大司教区とシアトル大司教区との 4 つの教区で『核なき世界をめざしてのパートナーシップ』を 2023 年 8 月 9 日に長崎において設立し歩みをはじめました。(中略) わたしたちも皆さま方とともに『核なき世界を目指して』その『パートナー』として動いてくださる仲間を増やしながら、ともに歩むことをあらためて決意いたします」(10 月 22 日付)

2020 年  
被爆 75 年から  
5 年間のチャレンジ  
<https://nuclear-free.net/>  
核なき世界基金

ほしかげ



## 創立150周年を迎えて マキたちの精神と 浦上養育院のあゆみ

児童養護施設「浦上養育院」(長崎市石神町)は今年で創立150周年を迎えました。

創立者の一人、岩永マキは浦上四番崩れの「旅」を終え、岡山県鶴島より1873年郷里の浦上に戻ってきました。しかし、家も畑も荒れ放題、生活はゼロからのスタートで



写真中央の人物は養育院の創立者の一人、岩永マキ。浦上養育院

### ヤコブ 山内豊神父 帰天



10月8日午後2時12分、肺炎のため青洲会病院(平戸市)で逝去。92歳。1932年6月8日平戸市生まれ。田平教会出身。60年3月19日田平教会で司祭叙階。同年3月大浦大司教館。同年9月三浦町、62年中町の両教会で助任。63年玉之浦、69年鯛之浦、75年相浦、88年黒崎、95年上神崎の各教会で主任を務めた。2

めに手を上げました。赤痢がようやく治まった頃8月には戌の年の大風が吹き荒れ、そしてまた今度は薩の尾島に天然痘が流行りました。マキたちはド・ロ神父とともに救護活動に奔走しました。一度は死んだ身であると感じていた4人の行動力は、神への信仰に支えられていました。天然痘で親を失った幼女「タケ」を自分たちで育てようと提案し養育を始めたのが「浦上養育院」の始まりです。当時の劣悪な環境の中にあっても、消え入りそうな小さな命を慈しみの心をもって大切に育てようと、辻の姉さんたち(現お告げのマリア修道会)は奮闘しました。

目まぐるしい変化を続ける現代社会の中にあつて、社会的養護の世界にもその影響は顕著です。児童福祉法の改正により、優先すべきはまず家庭養育である、とはっきり打ち出されました。次に里親、ファミリーホーム、最後に児童養護施設です。国が示す理想と現場の実情には大きなギャップがあることも否めません。心身に傷を負う子どもたちが親と離れて社会的養護の世界に足を踏み入れたとき、一人ひとりのような心が動くのか理解できませんが「大丈夫だよ」と、心の中でそっと抱きしめてあげます。

マキたちが大切にしていた精神、それは神様にいただいたいのちを愛おしみ、目の前にいる助けを必要としている命に寄り添うことでした。気づけば150年のあゆみ。これから子どもたちと向き合いながら小さな歩みを続けていきたいと思えます。

浦上養育院  
院長 Sr.吉永光子

### 岩永マキ流配地 鶴島巡礼に参加して

お告げのマリア修道会



10月14日(月)、「浦上四番崩れ」で岡山県鶴島へ流配となった岩永マキの足跡をたどる巡礼に参加しました。備前市沖の鶴島には各地から約170人が集い、ミサがさげられました。

島に降り立つと、流配された人々の祈りの声が潮風とともに聞こえるかのようでした。マキはこの地で父・市蔵と妹・フイを神さまのもとへ送り、悲しみの中にも復活の喜びへと心を向け、信仰の仲間とともに日々をささげて「旅」か



を差し伸べ、隣人愛に駆られて小さな命を大切にすることを「浦上養育院」をはじめました。その歩みには、150年という神さまの愛のまなざしが恵みとなって今も注がれています。

時の流れの中で紡がれ「マキ」の精神を引き継ぐ私たちが、神さまの懐に迎えていただくその日にマキたちとの再会を喜びのうちに迎えたいものです。

(修道会会員)

写真：上段はミサの様子。下段は「浦上キリシタン殉教者碑」前で撮影。

### 新たな気づきの時過ごす

教区司祭黙想会

毎年6月開催の教区司祭黙想会は、今年は6月と10月に分けて開催された。10月の黙想会は15日(火)から18日(金)まで、熊川幸徳師(サン・スルピス司祭会)を説教師に迎え、大司教館を会場に約40人の教区司祭・助祭が参加して行われた。

テーマは「祈りの年から聖年へ」。現在、聖年を迎える前の「祈りの年」にあたって、福音宣教省から、この年をより豊かに過ごすための一助となればとの趣旨で8冊の本が出版されている。そのうちの7冊を紹介しながら、祈りについて解説。自身の体験談も交えての丁寧な語りかけに、参加者は新たな気づきの時を過ごした。

謙虚な気持ちを取り戻すこと、祈ること、特に共に同て祈ることのありがたさを思い起こさせる黙想会となった。

### 異宗教間の一致めざす カトリック公開講座



締めくくりとして、イエズス会司祭で日本二十六聖人記念館館長のデ・ルカ・レノン神父様を招いて「諸宗教対話―異宗教間の一致を目指して」という題目で約2時間お話しをしていただいた。

11月2日(土)大雨の心配の中、教区生涯養成委員会主催のカトリック公開講座が、カトリックセンターホールを中心として各地区にもオンラインでつなぐハイブリッド形式で行われ、150人ほどの参加があった。

2024年度のカトリック講座は「信仰生活の基礎―ともに歩む教会をめざして」というテーマで教会生活におけるさまざまなこと(十戒や教会の組織、召命など)について学んできたが、その

レンゾ神父様の話の中で、諸宗教対話は日本においてザビエルが来日し、キリスト教が日本で広まった当初からの大きなテーマであり、続いてきたものであること(もちろん禁教下では不可能ではあったが、現代において諸宗教の抱える問題(少子高齢化、若い世代の宗教離れなど)は共通していること、信仰の形は違えども祈ることの大切さなど、たくさんの方の学びがある講座となった。

(教区生涯養成委員会)

**マイホームの美容と健康に！**

**(有) 山 川 塗 装**

有限責任中間法人 全国住宅火災防止協会  
長崎県建物営繕工事業協同組合理事

代表取締役 **ベトロ 山川 進**

佐世保市原分町1715-5  
TEL(0956)49-3330 FAX(0956)49-8729

**どろっま**

**Nagasaki Spaghetti**

長崎スパゲッティ Since 1953

株式会社サンフリード  
長崎市田中町584-1  
TEL(095)813-8787

右記URLからご注文できます

**カリス通信** 12月号

「カトリック司祭・修道会 医療費用共済制度」  
「カトリック介護補償制度」のご紹介

各教区・修道会の聖職者の皆様を対象に、相互扶助の精神に基づいた互助制度「カトリック司祭・修道会 医療費用共済制度」および「カトリック介護補償制度」をご紹介します。

＜カトリック司祭・修道会 医療費用共済制度＞

- 本制度の特長
  - ・対象：教区、修道会、在俗会、宣教会に在籍される司教、司祭、助祭、修道士、修道士、神学生等。
  - ・加入：各教区、修道会等の在籍組織単位で一括加入。
  - お支払する見舞金
    - ・葬祭費用見舞金：死亡時に、教区、修道会や遺族が葬式・祭祀に要した実費を給付(年齢による限度額を補償)。
    - ・傷害治療見舞金：ケガによる後遺障害の程度、ケガによる入院期間、通院期間に応じて見舞金を給付。
    - ・疾病治療見舞金：病気による入院時に、入院期間に応じて見舞金を給付。

カトリック共済システム 有限会社カリス 連絡先 ☎0120-77-0033

＜カトリック介護補償制度＞

※本制度は「カトリック司祭・修道会医療共済制度」へご加入の方のみが契約いただけます。

※新規ご加入の方におかれましては、「健康状態告知書」への告知内容の結果、本制度にご加入いただけない場合がございます。

- 本制度の特長
  - ・業務に従事するカトリック聖職者に対し、介護費用を広く補償します。
  - ・対象：教区、修道会に所属する司教、司祭、助祭、修道士、修道士、神学生等。
  - ・加入：教区、修道会毎に全員加入(任意でのご加入はできません)。
  - お支払する保険金
    - ・介護補償保険金：保険期間中に公的介護保険制度に基づく要介護3以上の認定を受けた状態となった場合、または公的介護保険制度の要介護3以上に相当する状態であることを医師等に診断され、その状態が90日間を超えて継続した場合に、保険金(一時金)を給付。

※制度の内容は「カトリック司祭・修道会 医療費用共済制度」・「カトリック介護補償制度」のパンフレットをご覧ください。詳細は契約者である団体の代表の方にお渡ししております保険約款により、ご不明な点等ございましたらご連絡ください。

私たちが、大澤阿紀子 大西 見 毛利玲子 お守りします。服部秀昭 川口 薫文(顧問)

カトリック共済システム 検索 24TC-004107 (2024年10月作成) 引受保険会社：東京海上日動火災保険株式会社

リスク補償に関してお気軽にお問い合わせください



## 貝津教会献堂 100 周年記念 感謝の思いを新たに



た。普段 20 人ほどのミサも、教会の外まであふれる中で記念ミサとなり、笑顔あふれるお祝いの良き日となった。

足かけ 5 年、教会内外を修繕し、準備し、ほぼ 100 年前の懐かしい教会の姿に戻し、子どもや孫たちに、小さいながらも自慢できる、

10 月 14 日、貝津教会は献堂 100 周年記念のミサと祝賀会を行った。中村倫明大司教様をはじめ、出身の神父様、修道者、歴代の主任神父様、地区の神父様、修道者、信徒の方々、そして遠方から貝津教会出身の信徒の方々など、およそ 150 人の方がご出席くださった。

きれいで素敵な教会として残せることに大きな喜びと責務を感じた節目の記念の日であった。これまで関わっていただいたすべての人に向けて、感謝の思いを新たにしながら過ごす一日となった。

貝津教会

## 牢屋の窄殉教祭

ロザリオの祈りと記念ミサ

10 月 20 日 (日)、牢屋の窄殉教祭が行われ、浜脇教会でロザリオの祈りと記念ミサがささげられた。天気は晴れだったが、風が強く、海上時化のために船が全便欠航し、下



見ると弱く未熟に見えるのは」と投げかけ、参加者の心を奮い立たせるように語った。教区シノドスや小教区再編成の動きによって、現代の教会の在り方、現代の信仰の在り方が模索される中で、過酷な時代にあった先祖たちの希望

## 黒瀬の辻殉教祭ミサ

気象庁が記録的短時間大雨情報を発表、生月大橋が閉鎖という大荒れの天気、翌日、風の強さは残りつつも、日なたは汗ばみ、日陰は震えるという、体感として何を感じ取るべきか困惑する気候の 11 月 3 日 (日)、黒瀬の辻殉教祭ミサが平戸地区信徒約 100 人の参加のもと殉教碑公園でささげられた。

川内和則師 (平戸地区長) は、説教で、人類が狩猟から農業へと文化を築いていったように、これからの私たちの生き方が、次世代への「文化」の種となるように、と信者としての生き方を励まし、殉教者に倣うことを勧めた。

もしやあの前日の天気も、殉教者たちが信仰に出会い、喜び、迫害のために苦しみ、悲しみ、殉教に向かつて覚悟し、信じた、そんな波乱曲折な生き方を感じさせようとしていたのかも知れない。

皆で、今後も祈り続けていく覚悟を新たにしたいとなった。

(山田小教区)

## 《報告》長崎青年の日 テーマは「希望の巡礼者」

11 月 3 日 (日)「長崎青年の日」を催しました。隔年で行われるこの行事は、長崎版の青年大会として開かれます。今回は 2025 聖年でも掲げる「希望の巡礼者」をテーマに、海外のバスチャン屋敷とド・ロ神父様の大平作業所跡で、中村倫明大司教様、青年 26 人、司祭 8 人とともに、教区の大



めに尽力された宣教師の足跡をたどりました。前半はバスチャン屋敷において、禁教令時代に信者を勇気づけた伝道師の話の聞き、大平作業所でド・ロ神父が海外の信者のために残した多くのものを見て回りながら参加者は繋がれてきた信仰を再確認しました。後半は、作業所においてホスチア焼きの体験を



行い、自分たちで焼いたホスチアを用いたミサを大司教様司式のもと行いました。中村大司教様は「イエス様の最高の愛をともに味わい、喜びのうちにあなたも愛を与える人になってください」と青年たちを励ましてくださいました。

その後、バーベキューをしながら、参加者たちはその日の体験を分かち合いました。中村大司教様をはじめ協力くださった方々に、実りある一日であったことを感謝のうちに報告いたします。

教区青少年委員会  
委員長 川端志範

## 司教座聖堂献堂記念ミサ



11 月 1 日 (金) 朝 6 時から浦上教会でミサが行われた。諸聖人の祭日であり、浦上教会の献堂記念日、また長崎教区司教座聖堂としての献堂記念日でもあるこの日、中村倫明大司教がミサの主司式を務めた。大司教は説教の初めに、本来であれば教区の多くの方々と一緒に祈ることができ、時間の設定が必要かもしれないが、今年には浦上教会の通

常の朝ミサの中で祝うこととしたと語った。最後に「私たちの聖堂、そして何よりも聖堂に集まる私たちが、諸聖人の取り次ぎによってますます神様の祝福を受けて勇気づけられ、主はともいってくださる」この福音を周りの人々に伝えていくよう、私たちの教会の使命を果たすことができると述べて、祈りを呼びかけた。

ア様におさげした。そしてミサの前にベトナムの伝統で踊り、聖母を賛美しながらお花をおさげした。ミサ後は音楽を流し、皆ゆつくり聖母を眺め、感謝を込めてダンスをした。聖母の温かい愛を感じ、力づけられて明日からまた仕事を頑張ろうと話した。これ

がきっかけとなり、皆、ルルドの聖母マリア、聖コルベと 26 聖人殉教者に親しみを感じたようだった。とても楽しい一日となった。聖母マリア様に感謝!!

(ベトナム共同体)

また、世界宣教の日でも

## 在長崎ベトナム青年たちの巡礼

## 26 聖人記念館と

## 本河内ルルドを訪ねて

10 月はロザリオの月、また、世界宣教の日でも



あつた 10 月 20 日 (日)、長崎在住のベトナム青年たちはマイクロバスなどで移動し、26 聖人殉教者の記念館と緑に囲まれた本河内ルルドへ巡礼を行った。参加者は 36 人だった。初めて 26 聖人の十字架のレリーフ (聖人像) や遺物などを拝見し感動した。本河内では山口雅稔神父様が聖コルベについて次のように話してくだ

さつた。「聖コルベが来日した 1 カ月後に日本語で雑誌『聖母の騎士』を出版された。アウシュヴィッツで一人の父親のために身代わりとなり、ロザリオの祈りなどを唱えて獄中の人々を支え、励まし、あらゆる困難を乗り越え最後まで見守った。また、聖コルベが今私たちに『家族を大切に、他の人のために何か善いことをしてあげよう』というメッセージを伝えたかったのではないだろうか」

初めて聖コルベのことを知ることができて、感動し喜んで聖コルベの模範に倣い、お互いに支え合って生きようとして若者たちが話した。そしてルルドに登りながら、皆で世界平和のためにロザリオを唱えた (写真)。一連の意向と花束をマリ



ア様におさげした。そしてミサの前にベトナムの伝統で踊り、聖母を賛美しながらお花をおさげした。ミサ後は音楽を流し、皆ゆつくり聖母を眺め、感謝を込めてダンスをした。聖母の温かい愛を感じ、力づけられて明日からまた仕事を頑張ろうと話した。これがきっかけとなり、皆、ルルドの聖母マリア、聖コルベと 26 聖人殉教者に親しみを感じたようだった。とても楽しい一日となった。聖母マリア様に感謝!!

(ベトナム共同体)

## シノドス第 16 回通常総会

## ともに歩む教会のため

10 月の第 2 会期が閉会

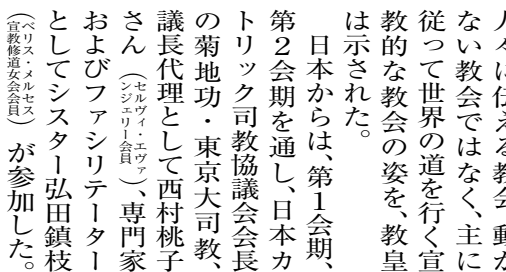


「ともに歩む教会のためー交わり、参加そして宣教ー」をテーマとした世界代表司教会議 (シノドス) 第 16 回通常総会の第 2 会期が、10 月にバチカンで開催された。

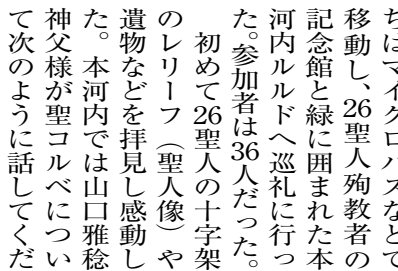
第 2 会期は 10 月 2 日 (水) 荘厳なミサと共に開幕。教皇フランシスコにより聖ペトロ広場で行われた開会ミサには、枢機卿、司教、司祭、助祭、修道者、信徒代表など、シノドス参加者 2 万 5 千人の巡礼者らが参列した。第 2 会期で

同シノドスは 2021 年 10 月に開始し、「全教会の成員や組織が積極的に参加する一つの大きな歩みとしての形をとりながら、教区ステイジと大陸ステイジを経て、バチカンでの総会議 (第 1 会

期 23 年 10 月、第 2 会期 24 年 10 月) まで 3 年間にわたりその歩みを続けてきた。以下はバチカン・ニュースから。教皇は、閉会ミサの説教で、同日の福音朗読箇所 (マルコ 10: 46-52) の、イエスが盲人バルティマイを癒やすエピソードを回想された。(中略) 教皇はバルティマイが道端に座って物乞いをしていた時と、イエスに呼ばれ、視力を取り戻し、「イエ



スに従った」時の、2 つの異なる状態に注目。(中略) 特にイエスに従って行ったバルティマイの姿は、シノドス的な教会のイメージであると指摘。主はわたしたちを呼ばれ、座り込んでいる、あるいは倒れている状態から立ち上がらせ、再び見えるようにしてください、と話された。



座った教会ではなく、立った教会、沈黙した教会ではなく、人間の叫びを集める教会、見えない教会ではなく、キリストに照らされ、福音の光を人々に伝える教会、動かない教会ではなく、主に従って世界の道を行く宣教的な教会の姿を、教皇は示された。

日本からは、第 1 会期、第 2 会期を通し、日本カトリック司教協議会会長の菊地功・東京大司教、議長代理として西村桃子さん (シノドス委員)、専門家としてシスター弘田鎮枝 (ベリス・メルセス、宣教師連合会員) が参加した。



長崎カトリック神学院

## 一泊体験入学に13人参加

10月26日(土)から27日(日)にかけての1泊2日、長崎カトリック神学院で体験入学が行われた。小中学生13人の体験生が集まり、5人の小神学生と共に有意義な時間を過ごした。

1日目は、体育館でスポーツや神学生が準備したゲームをするなどして楽しい時間を過ごし、夕食はバーベキューで笑い声があふれる時間を過ごした。2日目は、神学生から神学校についてのプレゼンテーションがあり、神学校の特徴的なことや司祭になるまでの過程が紹介された。最後は



中村倫明大司教様の司式でミサが行われ、説教の中では特に召命の大事さが伝えられた。

2日間、参加者皆が教会の祈りを唱え、分かち合いの時間を通して、自分の召命を考える時間を共に過ごした。数人が神学校に入りたいたいの意志を表した。

これからも長崎教区の司祭召命のためにお祈りと関心をよろしく願っています。

(長崎カトリック神学院)

## 女性部の交わり 熱く!!

ソフトバレーで「ともに歩む」

「宣誓。わたしたち、選手一同は今日ここに集えるお恵みに感謝します。日頃ため込んでいたストレスと脂肪を少しでも減らすことを目標とし

6つの地区から12チーム140人の代表選手たちが集い、競い交わった。このカトリック女性部バレー大会は「シノドス」ということが親しく聞かれる前から始まっており、「ともに歩む」教会共同体の姿が映し出されたものとなっている。



「三」とのとても元気な選手宣誓で始まり、「第5回女性部ソフトバレーボール教区大会」が11月4日(月)に三菱重工総合体育館で行われた。教区内



交わりを大切に、広めていきましょう!!」とのメッセージをくださった。

訂正 本紙2024年11月号4面「感謝・香典返し」の欄に、長崎カトリック神学院へのご寄付者のお名前を「鍋内秀幸様 故テレジア鍋内まち子様」と記載していましたが、正しくは「並内秀幸様(大山) 故テレジア並内まち子様」でした。訂正し、お詫び申し上げます。

広報委員会

今年中止となった。

### ふいつ園

▼平戸ザビエル祭 12月1日(日)14時、平戸ザビエル記念教会。  
▼教皇フランシスコ訪日5周年記念展示会 12月7日(土)11日(水)、東京・上智大学11号館1階。平日10時～19時、土日10時～18時開館(最終日17時まで)。入場無料。《期間中の講演》7日(土)13時、デルカ・レンゾ神父(イエズス会司祭)。9日(月)16時若松英輔氏(批評家・随筆家)《記念ミサ》11日(水)18時、麹町教会。  
▼朝拝会 12月17日(火)7時30分、日本基督教団長

結果は次の通り。優勝、平戸。準優勝、木鉢。3位、大崎、時津。皆さん、よう頑張りました。お疲れさまでした。(実行委員長 岡秋美)

### 短信

〈洞窟ミサ中止〉  
10月27日(日)に予定されていたキリシタン洞窟ミサ(上五島地区)は、天候不良の予報のために

### 新刊良書

★ゆるしの秘跡 子どもたちのための手引き(改訂版) 編 山内内公司、絵 村岡マリ



ゆるしの秘跡を受けるために必要な心の準備、実際の告白の仕方、秘跡の前後の祈りなどをフルカラーのイラスト付きで分かりやすくまとめたブックレット。  
改訂版では新たに、秘跡を受けるタイミングや告白をためらってしまう

子どもたちへのアドバイスと、慣れに求められる定番の祈り(主の祈り、アヴェ・マリアの祈り、栄唱)を追加した。巻末には、本紙の表紙イラストに込められたメッセージがつけられている。  
ドン・ボスコ社、税別200円。

★キリスト者必読 生涯学習のための「祈り」 著 百瀬文晃  
養成講座の講話を加除修正した、話し言葉が基のもの。そのうえ、共感を呼ぶ身近なことや筆者の体験も、ときおり例に挙げているので、読み進めやすいです」  
女子パウロ会、税別1350円。



「祈りは、新年や人生の節目、困難に遭遇したときだけに必要なものでは

タンクの中身は入れたまま 責任ある安全運送!! (見積り無料・荷造り発送も致します)

## 水浦運送

シモン 水浦 幹雄  
長崎市上野町12-3  
TEL(095)9847-7151  
携帯 090-7923-9005

24時間営業・年中無休 受付時間 7:00~22:00

貨物保険有り  
・一般引越  
・小荷物  
・荒ゴミ捨て  
・遠距離  
・学生引越

内科・循環器科

## 医療法人 平田クリニック

院長 ヨゼフ 平田哲也  
通所リハビリテーション  
上野町グループホーム・サービス付き高齢者住宅  
長崎市上野町1-5 TEL 095-845-6175

主の平安

株式会社 五島式典社(斎場) 五島中央会館 五島留会館

代表取締役 ヨゼフ 浦 昭

24時間営業  
五島市上津町 1385 番地 1 TEL (0959) 74-5551 FAX (0959) 74-5552  
五島市奈留町浦 1899-1 TEL (0959) 64-3101 FAX (0959) 64-3102

2024年4月から相続登記の義務化スタート  
これまでの相続も対象  
相続した不要な土地の国庫への帰属手続、遺言書作成など  
まずは、お電話を!!

## 司法書士 山下 緑 事務所

ミカエル 山下 緑  
〒854-0014 諫早市東小路町10-21 電話 0957-22-6177

小家族様

## 長崎石彫 岩永

赤城墓地分譲中 ☎ 095-862-2469